
おかしな・おかしな

地海月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おかしな・おかしな

【Nコード】

N1981Z

【作者名】

地海月

【あらすじ】

恋愛異端の作者の無謀。ただそれだけ。短編集。意外と書きやすかった。とらえかた次第で内容が変わります。地海月が書くところになってしまいう恋愛短編。有りそうでないのか、なさそうで有るのか作者にもわかりません。現在『試作』1と『地海月初節』ビデオレター

追加。八日に『虚しき悲恋』 真実は本の中

「お幸せに……」

そう呟いてから去った。

初めて愛した人の幸せを見届けた。

初めて恋した人が幸せを貰うのを見届けた。

私の役割は終わった。

君は私のことが嫌いだろう。

君は私のことを忘れることはないだろう。

彼はいい人だ。

君と共に生き

君に幸せを贈り

君は幸せを贈り返すだろう。

役目を終えた道化は去ろう。

君につけられた傷を大事に抱えて生きていこう。

枯れた心は輝が入り

枯れた涙腺からは涙がでない

ああ、何て滑稽なんだ。

踊った先に笑いはなく

演じた先に感動はなく

盛り上げた先に未来がない

遠い喧騒が今は煩わしい。

ビデオレター（前書き）

一組のカップルに贈られたビデオレター。
カップルは慟哭した。
喪ってしまった人をおもって。
もうあえない親友をおもって。

ビデオレター

最初はその笑顔に惹かれたんだ。

君は独りだった僕を救ってくれた。

君がその時何を思ってたか知らないけれど。

差し延べてくれた手が - 僕に向けてくれたその笑顔が - 僕の孤独を取り除いてくれたんだ。

次にあつたとき君は泣いていたね。

なんで泣いてたのか君は言わなかったよね。

僕は何も聞かず、何も言わずに…そっと隣に座った。

孤独から救ってくれた君に恩返しがしたかったから。

三度目にあつたとき君は笑っていた。

少し無理してた笑顔だったけど - 僕はあの時の恩返しができたと思っただ。

僕は君が好きだったんだよ。

三度目にあつたときに自覚したんだ。

これが恋なのだとね。

四度目にあつたとき、君と友達になった。

君といるだけで幸せだった。

友達になってから一年目くらいの時だっけ？君に恋人が出来たのは。

僕は…君からそれを聞かされたとき笑えてたかな？

それから三人でいろいろしたっけ？

いろいろなところに行っただね。

君は楽しそうだった。
君は幸せそうだった。

君が付き合い出してから二年目くらいときだったかな？君の恋人
が入院したのは。

駆け付けた僕たちは、笑って元気だといった君の恋人に安心した
っけ？

君の安堵の涙が綺麗だった。

僕は二人きりにするために病室を出たね。

遠慮しないでいいのにと二人ともいつてたけど。

その後ぶらぶら歩いている時に知ってしまったんだ。

君の恋人が重い病気で。

臓器が移植出来ないなら そう長くない期間で死んでしまうと。

幸いわかるほど悪化するのとは末期だと言ってたけど…。

僕は…君を悲しませたくなくて - 病室にかえった時にどうしたのと
聞かれて…最初の嘘をついたんだ。

その後毎日お見舞いに行ったね。

そのたびに辛かったんだ。

僕はしってるけど…君達はしらなかったから。

君を悲しませたくなかったからね。

苦しかったよ、言えないことが。

半年後くらいだっけ？医者に余命宣告されたのって。

君達の顔を僕は見れなかった。

言えばよかったと後悔したよ。

君達の慟哭をみてしまったからね。

それからしばらくして、ドナーが見つかったよ。
誰だったと思う？

そうだよ。僕だったんだ。
だけど僕は健康だった。

他にドナーとなりえる人がいないと知って…膝が崩れおちたよ。
他のドナーを見つかる程時間が残されてなかったからね。

日々やつれていく君達をみて…僕は - 決心したんだ。

それからの僕の行動は早かったね。

君達に嘘をついてそこらじゅうを飛び回ったよ。
脳天気そうに見えてたのかな？

しばらくして、君達にあつたとき君達は僕に怒りをぶつけたね。

僕はその時どんな表情してたかな？
僕は何も言わずに立ち去ったけど。

それが最後だったね。

治るって医者に言われたとき君はどんな表情してたかな？
嬉し泣きだったと僕は思うな。

二人して抱き合ってわんわん泣いてるのが思い浮かぶよ。
その後電話かけてくれてたみたいだね。

ごめんね。僕出れなかったんだ。
…言ってしまったから。

これを見るってことは無事に手術は終わったんだね？おめでとう。
直接言えないのが残念だけど、仕方ないよね？僕もう生きてないし。
僕が勝手にしたことだから誰もうらまないでね。
せっかく命はってプレゼントしたんだから。

もう時間も残ってないし…最期にこれだけいって逝くね。
好きだよ…○○○○。お幸せにね。

幸せにしてあげてね？君は僕なんだから。

バイバイ…○○○○。

僕幸せだったよ。

元気でね。

寿命で死ななかったら許さないだからね…。

欲を言えば…君達の幸せ見届けたかったなあ…。

最期にいうことじゃない気がするけどね。

ビデオレター（後書き）

私書き終わって涙出ました（；）

眞実は本のなか（前書き）

虚しき話

真実は本のなか

なんでこうなったんだろう
なんでこうなってしまったのだろう

私はあなたの幼なじみだった

小さな村の隣人同士

親同士も仲がよかったから

いつも二人で遊んでいた

あなたはいつも大人ぶろうとし

私はいつも愚直だった

楽しかった

楽しかった

言葉を交わさずに意志を交わして

いつも二人で遊んでいた

成人の儀式を終えてから

二人で河原で誓いを交わしたよね

打ち付けた拳が頼もしかった

村が流行り病で全滅して

二人で優しくかったみんなを埋めて

墓をつくって泣いたよね

その時に気付いたんだ

私はあなたが好きだと

村を焼き払ってから旅だったよね

みんなの声が炎から聞こえた気がしたよね

二人でいつてきますとありがとうをいつて

最初の旅が始まったよね

お金すられて喧嘩したり

宿で旅を振り返って笑いあったり

賞金首相手に無双したり

ハゲの豚を失脚させてスツキリしたり

破天荒だったけど楽しかった

国の首都で政争に巻き込まれて次の旅が始まったよね

道連れが増えたけどみんないいやつだった

みんなで騒いだ珍道中

全部書き留めて本にした

こっそり写本をあなたに贈ったね

私の分はあそこに封印したけど

内容は全部覚えてる

大切な思い出出

解散してから最期となっちゃった旅が始まっちゃったね

最初は何時もの破天荒な旅だったよね

ある山を上っていたときに襲撃されて離れ離れにされてしまったとき

全部おかしくなっちゃったんだよね

私は襲撃者を全滅させてから麓におりた

私はおりずに、山であなたを探すべきだったんだよね

麓の街に滞在して情報收拾したけど

あなたのも襲撃者のも、めぼしい情報は見つからなかった

それから一人旅が始まったんだ

あなたがいなくて寂しくて苦しくて悲しかった

三年くらいたって

私とあなたは
再会したね
敵同士という立場で

あなたは私の記憶を失って
あなたの本を改竄されて
私の立場にあいつがおさまって
あなたは私の敵になっていた

あいつの顔とあなたの雰囲気ですぐに私は気付いたんだ
私は嵌められたんだと
上手かったよ
あいつの手腕は悔しいけど私より格上だった
あなたに敵意を向けられて
情けないけど私は逃げたんだ
あいつの高笑いがやけに耳についた

それから私は逃亡生活をおくったよ
みんなには再会できた
みんな憤ってたけど
私は手出しを諦めて貰ったよ
わかってたんだ
もう無理だった

説得が終えてから私は向かえうった
不眠不休で何日闘ったかわからなくなって
血で血を洗うようになったとき
あいつに連れられてあなたはきたよね
私は限界だったよ
あいつの高笑いが

人を嘲る態度が
あなたを自分のものだと言いつ放つ声が
私に限界を越えさせたよ
どう転ぼうと私は死ぬと理解したけど
あなたはやっぱり強かった
対した抵抗も出来ずに
私はボロゾウキンになった
あなたは泣いてたよね
忘れても失わされても
誓いが涙を流させたのだろうね
あなたが止めを撃ち込むとき
誓いを私は暴走させた
命と私の存在の全てを代償にして
あいつに呪いを
あなたに祝福を
かけたんだ

薄れる意識の中
あいつが破滅するのをみて
あなたが泣き叫ぶのをみて
私は消えた

伝えられなかったけど
私はあなたが好きだったよ
さよなら
ごめんね
みんなによろしくね

歴〇〇〇年

素晴らしき統治者　　が恐怖に染まった顔で死んでいるのがみ
つかった。　　大陸連合としては行方不明の　　がこの件
に密接に関わつてると確信し、生死問わず史上最高額の賞金首とし
て手配することを決定した。　　の　　である　　は
廃人となって近くで見つかった。　　の仲間達はみな憤死
していた。　　を殺し　　を廃人とし、
の仲間達を憤死させた　　を史上初にして最悪の　　とし
て　　大陸連合は徹底的に断罪し、後世まで赦されざる悪とし
て語りつく所存である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1981z/>

おかしな・おかしな

2011年12月8日07時45分発行